



ハレノヒ

大田区立松仙小学校
令和5年10月13日(金)
裏研究推進だより第7号
研究推進担当

体育話題提供授業 協議会記録 授業者 4年生 担任

成果

課題&疑問

導入

◎準備運動、補助運動

- ・短時間で要点を抑えて、運動量がある。音楽が効果的。

◎ペアでの課題確認

- ・自分の課題が明確になった。

◎学級経営

- ・できるようになりたい。できるようにさせたい、という学級の雰囲気が良い。

◎補助の局面指導

- ・補助倒立の補助場面で、危ない場面が見られたので、全体の共有はよかった。

◎2人→4人の活動

- ・練習タイム①から②での活動で、アドバイスや補助量が増えた。

◎チェックシート、伝え合い

- ・チェックシートをもとにして、伝え合う姿が見られた。

展開

終末

◎チェックシート

- ・チェックシートにないコツを見える化して活用できるとよい。
- ・活用していないグループがあった。

◎支援

- ・個人の必要な支援の見取りと、その支援にかかる時間や支援内容の選択が難しい。
- ・全体で局面の指導について、上記のことが難しい。

◎補助

- ・全体指導後も危ない補助があった。

◎苦手な児童への支援

- ・マット運動が苦手な児童への支援について知りたい。

◎伝え合い

- ・児童同士でできるアドバイスには限りがある。

<授業者自評>

- ・場に応じたアドバイス、発言に対する価値づけの質を磨いていく。
- ・できない児童をできるようにさせてあげたいので、さらに研鑽していく。

☆「勉強になった！」ポイント☆

チェックシートの言葉やイラストのこつ以外のこつの確認について、全体での共有や練習タイムでの確認や発見は、今後の児童の財産になりそう。伝え方についても、体育は言葉やイラストだけでなく、体を動かしながらの伝え方があるので、授業で使っていきたい。

指導・講評
国立教育政策研究所 教科調査官

よかったところ

☆めあての確認

2人で、何をめあて（頑張るのか）にしているのかを確認すること。

☆準備と片付け

用具を丁寧に扱っていたこと。順番を譲っているところ。（学級経営）

今後に向けて

★主運動につながる運動場面

- ①かえるの足打ち…手の平で体を支えること
- ②ゆりかご…大きなゆりかごにすること
- ③（他校の実践例）曲を変えるだけで進行できるようにしておく、運動量の確保につながる。
- ④（他校の実践例）学校全体で、主運動につながる補助運動を決める。例 1年生から腕支持で川とび

★指導案

主体評価…マット運動に進んで取り組もうとしている（愛好的態度）は1時間目で見られるか、次回教えてほしい。

★技能評価C児童

- ・イラストは、有効。
- ・先生が実演→C児童はできない→違う場で練習（友達が教えてくれた。）
→技の習得は見られなかったが、変容が見られた。

★今後に向けて

- ・学び合っていくことの価値づけをしていくと児童にその力が涵養する。

★学び合う教師

- ・実技研修をするなどして、指導のポイントや場の工夫などを共有できるとよい。

キラリと光る付箋

<あたたかな雰囲気>

- ・先生の笑顔と積極的な声掛けがすてきでした。
- ・N君の補助がよかった。全体に広まったのもよい。

<グループ分け・チェックシートの活用>

- ・チェックシートの活用◎近い技能同士だったから→ペアリングも大事
- ・チェックシートにないコツを見える化すると「できた」がうまれたのではないかな。
- ・動画を見ながら、技のコツを確認していた。

<伝えタイム>

- ・友達が成功した技を見て、「オレもやりたい」と意欲みせていた。→できた→自信に繋がる。
- ・できる子がコツを教えていた。 ・できなくてもアドバイスで参加
- ・児童同士でできるアドバイスには、限りがありなかなかできないと困ってしまう。

前回の話題提供授業から「動きの中で伝え合うのは難しいため話型があるともっと良くなる。」（小林）の反省から学年は違っても手立てを改善したのが、流石体育を研究している学校だと感じた。

今回の授業では、どうすればこの授業時間内に児童が「できた」となるかがとても重要に思えた。低学年の体育は「遊び」、中学年から高学年にかけて「技ができた」「途中までできた」など、場の工夫からはじめ、チェックシートや動画、カメラの活用など便利なものをどこまでどのように使うのかなど「児童の必要感」に応じて、教師として提示や声掛けをしていくことが大切である。